

1. 市内の文化芸術団体向けヒアリング結果概要

<p>市内の文化・芸術活動に対する認識</p>	<p>活動の現状</p>	<p>(盛ん・充実している)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な教室等があり、活動に触れていると思う。文化協会もあり、盛んなほうではないか。 ・有名な歌手が市に来てくれるのはよい。福岡市に行く必要はない。 ・市の小学校では合唱は重視され、合唱祭をしている。中学校では必ず合唱コンクールがある。 ・合唱の練習時間もしっかりとり、合唱の先生が来てくれる。合唱に対する意識は高い。 <p>(頑張っている)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々のチームは細々と、絶えないように頑張っている。ただ発表した文化祭(春・秋)は、リモート出演。お客さんもマスクをして、自分たちの子どもたちが踊ったかどうかがホールで放映されるのを見るしかない。出演者も他のチームは見られず、出ていく必要がある。発表場所に対して市として自粛傾向が強い。 ・音楽に関して頑張っていると感じている。ただ、お客さんと呼んでの文化活動というより、イベント的なことに見えてしまう。コロナが3年間続き、そのようになってしまっているかもしれない。 ・市民は多くの方が活動しており、多ジャンルのチームが多い。ヒップホップ、バレエ、ヨガ、カントリーダンスもあり、太鼓もある。劇団やまもも、吹奏楽は北中が強い。 ・南畑地区では美術散歩等をしており、あのような取組は良い。どれくらいになったら盛んかという点と難しい。基本的には高齢者が多い。 <p>(改善していく余地)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい問題でもあるが、盛んではないとは言えないが、本当に盛んかと言われると、市の人口とかを考えた時にどうかと思う。 ・県道の554号線に岩戸城跡があるが、少しずつ開発が進んでいるような状態で那珂川市が文化的なまちとは言えない。 ・芸術やアートは「驚かせる」ことが大事。次の驚きをどう考えていくか。若い人が「あそこにあるんだよ」ということをしなければならない。那珂川市は新しいことができるはずだ。 <p>(市民の意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はイベントを開催しても、「那珂川は田舎だから芸術は分かんよね」という感想があった。催しを開催しても人が集まらず、集まっても慣れておらず、聞き方も分からない。芸術が浸透していない状況。それが、著名な方(落語や音楽)を呼ぶことはプラスになっており、市内の団体も活動するようになって、足を運ぶ人も増えているのでは。我々のイベントに来てくれるお客さんも昔に比べると増えている。着実に那珂川市の文化活動は広がっている。 ・文化系とスポーツ系がある。子どもたちが大きくなり少年スポーツ団に入ると練習と重なるとそちらを優先されることもある。平日よりは土日祝を優先した活動をしているが、小学校に入るとスポーツ団体に入ることも多く、特にチームスポーツ系だとそちらが優先される。スポーツは成果が見えるが、文化は心が豊かになっても形が直ぐには出ない。 <p>(情報発信・PR)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報が弱い。どんなことをやっているか、興味・関心がある人ならば見るのではないか。博多南駅でした時に、立ち寄った人が、「那珂川市にこのような活動があるんだ」と言っていた。 ・目に触れる場所を設定することで、新しい発見につながる。色々なところであることが大切。
<p>鑑賞機会</p>	<p>鑑賞機会</p>	<p>(機会は多い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結構やっていると思う。ただし、活動を発表する場合は、ミリカが中心となる。 <p>(機会は少ない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国組織からも、小学校や中学校へ行きなさいという指示もあり、お願いに行っても、教育委員会や校長などから、「できません、カリキュラムがいっぱいです」となることが多い。昔は子どもたちも色々見ることができたが、そうした時間がなくなっている。姿勢として、受け入れて、子どもたちに伝えようという環境ではない。 ・もう少し芸術的なもの、文化的のものを知ってもらい、受け継いでいけるようなまちになってほしい。 ・小さい頃から音楽に親しむようにしたい。那珂川市が音楽・芸術のまちになってほしい。そのためには子どもたちからだ。子どもたちが参加できるイベントがあるとよく、昔は音楽祭があったが、コロナでなくなってしまい、色々な活動を発表できる場所があると良い。ミリカローデンを利用しながら考えたい。 ・小学校や中学校に対して、触れる・見る・聞く機会が少ない。小さい頃に劇団だったり、オーケストラだったり年数回、体育館に全校生徒を集めてやっていた記憶がある。知らない人、見たことがない、触れたことがない人が多く、もったいない。 ・マイナーなものは1回見てみるのが大事である。100名の方が同じものを見て、少しでも興味を持ってやってみたいと思う人が1人でもいれば良い。 ・演奏会をする時にSNSや、ミリカディア等での啓発活動があると良い。 ・発表の場を増やせると良い。ミリカは新しくなったが、わざわざ行って見るだけでなく、目にする機会を増やすことが必要。岩戸近隣公園などの外の公園で昔は催しをやっていた。公園や外でできないか。バンブーオーケストラや岩戸神楽、劇団やまもももあるが、関係者や好きな人しか見に来ない。本当に市に広めたいなら、歩いても行ける公園、その次に学校でやってはどうか。もっと広かれた発表の場があったほうが良い。 ・ミリカで親子向けの鑑賞事業がそこまで多くない。ミリカがあるため、ホールで鑑賞会ができると良い。 ・学校へのアウトリーチを行う団体も少なくなっている。予算の問題もあるが、コロナの問題もある。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数の問題もあるが、何かを作って展示をしても人は来ないはずだ。関心を持つ人が少ない。福岡市と比べて、芸術への関心の有無ではなく文化的素養の平均的なレベル差がある。 ・江戸時代は家に掛け軸があり、季節や家のイベントで架け替える習慣があったが、今はそれがない。そうすると子どもたちが絵を見るということがほとんどない。そうすると素養が身につかない。美術館へ行き大きさを知り、いくらでも感じてもらえるよ。市美術館、県美術館などに行けると良い。 ・お互いに文化活動をしているが、情報を知らない。 ・基本的には那珂川町には資料館がない。図書館にも蔵書が少ない。資料館がないと重みがない。自分が興味を持ったことを調べられると良いが、そのための本がない。 ・学校でも万葉集の授業はあると聞いている(郷土史)。身近な歴史を知ることができ、さらに、郷土愛を育むことができるため喜んでいた。

	<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市をあげて何かをする時に、実際の演出や舞台に長けている人が中心にいない、照明も舞台用語も分からない。動かす人の中に舞台を知っている人がいないといけない。動かす側のレベルもアップしていく必要がある。 ・会のメンバー集めで文化協会にも声を掛けたらすぐに乗ってくださり、関心のある方が会に入った。今後も人脈はないので、無理をせずに増やしていきたい。 ・くるりんぼには団体登録をしている。 ・文化協会にも参加し、市民文化祭ではバザーで参加したりしている。また人権フェスタではわらべうたをしているサークルがあり、30分程度を受け持ったりもした。
<p>那珂川市の文化・芸術政策に期待すること</p>	<p>(歴史を活かす)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけの歴史があるまちは、他にもあるかもしれないが、もっと活用すると良い。ただ、古いものだけでなく新しいものも取り入れていくことが大切。 ・那珂川市には神社が多い。現人神社の流鏝馬などがあるが、それを市が中心となって売り込んでいくべきで、大々的に大きくなるのが重要。ちゃんと見る機会をつくるのが大切。 ・その地域ならではのものが大事。色々な神社があるので、市が応援して大きなイベントにしていくと良い。市がバックアップして、この神社がいつに出来て、ということをも市民自身が伝えられるようになると良い。 ・神楽やライトアップが素晴らしい。日本人が好きな祭りを考えてほしい。 <p>(情報発信・PR)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアは大事だ。ケーブルテレビは練習場所も取材いただいたし、自宅も取材してもらったが、誰からも「見たよ」とは言われない。民放のメディアに取り上げてもらうのが良い。 ・那珂川市にはたくさんの文化財があるが、那珂川市の人ですら知らないし、福岡市に住んでいればなおさらである。 ・SNSは高齢者では使える方と使えない方もいる。新聞やテレビを使えると良い。 ・SNSをうまく使っていないといけない。去年から我々もSNSで講演会や日々の練習を公開しているが、試行錯誤。 ・メディアは力があるので、市としてうまく使えないか。ケーブルテレビジョンもあるが、見ている方は一部。契約している方等は高齢者が多く、「やっているな、見に行こうかな」となるかという疑問。民放のメディアで講演会や演奏会があることをお知らせできると良い。 ・認知度の向上をお願いしたい。那珂川の情報がほしいと言われて渡すことがある。同じような活動をされている団体へ情報を流すことも良い。 ・他の団体がどういう活動をしているか、ぱっとみてわかると良い。文化祭があると、どんな団体があるか知ることができるが。 ・どうしてもスポーツ団体の方が、認知度がある。文化協会も頑張られているが、文化は時間がかかる。 <p>(子ども・障がい者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが直接できることがあればよいが、なかなか難しい。まずは聞けるもの、見られるものがミリカで開催され、「無料で見に行けるよ」というものがあると、困りごとを抱える家庭に配りたい。 ・障がい者と一緒に1つの曲を歌ったりできると良い。去年は人権フェスタでキャンパスの子と一緒に歌ったりもした。 ・若いころから知ってもらいたい、聞いてもらいたいため、中学校との交流を強く願いたい。部活動について、先生方の関わりが土日について無くなっていく。民間の方が顧問の先生に代わって指導していく流れになるとのことだったので、那珂川市では我々のようなアマチュアが、部活の時間に指導できると良い。 ・自然があり、神楽があるまちに住んでいる。子供達が輝ける場、培える環境があるとよい。そのためにチームをつくった。 ・体を動かすことやダンスは永遠なので続く。小学校にそういうダンスの先生を派遣することが必要。タブレットで動画を見て踊るだけではダンスを伝えることはできない。 <p>(観光を活かす)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ観光課がないのか不思議だ。1つは観光という、山田・安徳という資産を位置付けて、周辺地域資源（花、農産物など）と一緒に1つの大きな拠点をつくれれば、たくさん人は来ると思う。 <p>(育成・後継者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番は後継者をどう育てていくか。育てることは我々の役割でやるが、どうやって集めるか。そこを連携し、行政と協議をしながら良い方策があればと思う。活動を本当にやりたい人を一本釣りできるかが難しい。 ・別府市は学校があり、卒業後に直ぐに工房を持たない場合に1年間の貸工房がある。それがあれば、何かを目指す若い人も集まるし、1区画、年間幾らという形（別府市は無料）で、1年間だけでも使えるスペースがあると、活躍する人が出てきたり、夢を持った人が集まるのではないか。そのようなスペースや貸工房があると良い。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミリカがあり、図書館や子どもふれあい館があるが、歴史博物館のような施設がない。毎年社会教育課は発掘等をしているが、それらを展示している空間がなく、もったいない。

2. 市内の中間支援団体向けヒアリング結果概要

	<p>活動の現状</p>	<p>(市民文化祭)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民文化祭は、知っている人がいたからその存在を知った。情報の共有が必要。目につくためにどうしたらよいかは課題。 文化協会と共催で、市民文化祭を2日間開催しているが、舞台発表の申込みは多い。人口の割には盛ん。 <p>(状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どものジュニアダンスは増加。大人は、昔からのダンス（フォークダンス等）、日本舞踊は減っているが、他は増えている。ハワイアンが増えた。費用がかからない、健康志向が強い。 中央公民館、地区公民館（3地区）の活動は、文化協会加盟会員が多い。自治公民館（市内30館程）でも活動はあるが、文化協会には入っていない。 どんな環境でも関心がある人はいるが、言うことが憚れたりする。そういう人にどう届けるかは苦心。口コミでしかつながらないため、場をつくり、話題を紡いでいくしかない。市の土壌や相性の面からは、それを後押しするほど文化的に豊かではないが、文化的に駄目なまちではない。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作家さんの中には、芸術を観光に結び付けたい人もいれば、作り手の継承を重視している人もいる。観光に結び付けたい人は、自分で動かれている。 まあまあされていると思うが、個人でされている方が多いように思う。把握できていない。
<p>市内の文化・芸術活動に対する認識</p>	<p>鑑賞機会</p>	<p>(機会は多い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民文化祭や2ブロックの文化祭、人権フェスタなど、ミリカを会場にした展示は多い。 <p>(機会は少ない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞する機会は少ないのではないかと。普段生活する上では、どういう作家さんがいるのかは分からないし、その作品を見ることはあまりない。 那珂川市全体で作家・工房がいくつあるのかは、我々も分からない。 どこかに所属するかしないと鑑賞機会がない。福岡市にすぐ行けることも要因として考えられる。 作家さんが広報する場が少ない。個人で発信くらいだが、それでは限界がある。一緒になって広報できればよいのかもしれない。 ミリカは色々と企画はされているが、市内で発表の場はミリカ1箇所なので、市民が芸術文化に接する機会は少ないように思う。 他市と比べると鑑賞機会は少なく、鑑賞するものも選ぶことはできないが、ミリカは料金が安いので、他市から来る人は多い。市内には映画館、美術館、博物館がないので、福岡市に流れていく。 ミリカの鑑賞機会はある程度揃っていると思うが、市民から見ると、行きたいと思うイベントがないと感じられているかもしれない。 <p>(資料館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史資料館が、市内にない。県内で歴史資料館がないのは那珂川市を含めて2か所である。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 那珂川市は年齢層が高くて地にいる人が無関心層で、若い人は無関心層ではない。午前中からマルシェをしている人がいるが、遊んでいるわけでもなく、子どもを連れて行くこともできる。 若い層は、無関心層ではない。文化・芸術に関するイベント等に出てきにくい事情があり、それは家（家庭）の事情も大きい（例：消防団は良いが、文化・芸術に関することは駄目）。そこを変えていきたい。
<p>自団体の活動上の課題</p>		<p>(南畑美術散歩)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市からの補助金で運営している。必要経費（リーフレットのデザイン、印刷費用が大半を占める）を除いたところで、移動手段を用意するのがギリギリ。 これまで作家さんのところにお客さんが自由に行ってもらおうというスタイルを変えていない。作家さんが増えない中で、新鮮味がなくなることへの不安がある。作家さんからも声が挙がっている。 当初の目的（知ってもらい、移住につなげる）をある程度達成し、次の目標設定は課題。地域交流の観点からは、美術散歩があることで、地域内で話し合う機会が増えプラスに働いている。 地域おこし協力隊がいることで回っている面が多い。作家さん自身も年齢が上がっていつているので、このまま続けられるかが心配。 <p>(ミリカの体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいイベントをするにしても、本数を増やすにしても、職員数は増やしたい。 サークルは100講座あるが、平均年齢は60歳超。新しい層（働く女性）向けの講座を実施したいが、生涯学習棟の改修が入るので出来ていない。 職員の専門性を如何に担保し高めていくか。また、外の方とどのようにつながり、事業をしていくかも検討していかないといけない。 貸館事業も、文化ホールの稼働が100%というわけではない。外に営業に行くことも必要。 ミリカカードがあるが、特典が非常に少ない。周りの企業等と連携して特典を増やす、イベントを拡げていくことが出来ないか。その意味では、外との関わり方が足りていない。 <p>(コロナへの対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナで事業が休止になり、アーティストの中には収益に困る方、個人でも文化芸術に触れる機会が減った方もいる。ウィズコロナ、アフターコロナの時代の中で、どのように支え、盛り上げていくかは、文化施設の1つのミッション。 コロナ禍で事業のコンセプトに対しては大きなダメージがあった。その編み直しが必要である。テーマを絞って（例えば子ども、食）、人に訴えかけていくようにしている。そこに人を集めるのではなく、それをきっかけとした日常の会話を復活させていきたい。そこを大切にしていきたい。そこからいろいろなニーズも見えてくるし、ニーズにはないがやったほうが良いことも見えてくるので、活動も尖っていきたい。 来た人が減っても情報を収集していく（声掛けなど）ことが大事。関わっていく人の人材育成も重要。ここのビルに来ている人は減っていないが、会話は減っている（長居はしない）。 <p>(高齢化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の問題はどこでも同じ。指導者、生徒のどちらも高齢化している。高齢化して人数が減っていくのは致し方ない。新しい方を入れるか、高齢化の影響を緩やかにするかのどちらかで対応することが必要。

<p>文化・芸術活動を地域活性化などに活かしていくための取組</p>	<p>(接触機会の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜に出ていくことを復活させたい。飲みに行くのではなく、話したり、コンサートを聞いたりする機会を増やせず。ただ単に増やせば良いわけではなく、どう増やしていくかを考えなければならない。 ・オピニオンリーダーではないが、例えば陶芸家が日常的にいる必要がある。カフェに陶芸家がいると話をしていると、そのまわりにいる学生等は刺激を受けているはずだ。そこでたまたま出会ったということが大きいし、人によっては色々な繋がりも始まる。ここでやっていく活動を広げていくとすれば、何かを創っている人でも居心地が良い場所をつくること。住んでいなくても中長期的にいられるように、レジデンス環境を整えることも必要。作っている人が滞在し、または作っていない人がこれから自分達の場所をつくるサポートは必要。 ・南畑には、これほどの作家さんがいるということを PR 出来ると良い。市内に美術館、ギャラリーがないため、作家さんからも、人目に触れる機会が少ないとの声を多く聞く。 <p>(公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を借りる上では、半数以上は那珂川市民である必要があるが、文化協会の会員であればその要件はない。それを上手く利用してもらおうことも考えられる。 <p>(ミリカ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡都市圏はどの自治体にも1つは文化ホールがあり、人口に対する文化ホールの密度が高い。その中で那珂川らしい公演は何かを追及したい。 ・複合施設の特徴を生かし、文化事業と図書館が連携した取組をエントランスホールでも検討したい。 ・市民の方優先であるものも、鑑賞や誘客は市外の方に支えてもらう面もあり、そのバランスが重要。市外中心では主客逆転。市民の方に楽しんでいただき、さらに市外からも来ていただくようにする。 ・アウトリーチを増やしたい。コロナ前は、学校にクラシックのソリストを派遣。今年度は、演劇関係のワークショップを実施予定。 ・来館していただく対象として、幅広い年齢層を取り込みたいが全体的に職員の年齢層が高い。若い職員には、SNSを使った情報発信を期待。中間層には情報が届いていない。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体に広げていくためにやることがあるとすれば、拠点を使いやすくすることが大事。
<p>那珂川市の文化・芸術政策に期待すること</p>	<p>(補助)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用面をどうするか。小学生の制作体験に係る資機材費も補助金から出している。費用面のサポートが充実すると良い。 <p>(接触機会の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南畑小学校は、全校90名で1クラス最大20名なので、作家+1人で回すことができる。他の学校でも1~2学年を対象に出来ればよい。 ・市内でイベントが色々あるので、その際に、文化芸術の発表会を入れることも、多くの人に知ってもらい、触れてもらう手立てではないか。 ・マルシェ等も会話をしてくるのはおばあちゃんだ。来る・来ないではないし、ここが遠いのであれば近い場所にそういうところがあると良い。 <p>(団体間の交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体間のコラボを仕掛けることも、できると良い。 ・市内で色々な取組がされており、市も色々とされている。一体的な取組、視点が大切。コロナ渦で、心の豊かさが大切ということは見直された1つ。 <p>(プロとの接点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内には、プロの芸術家の方が多いが、一部の方しか知られていない。他市では、高名な方を巻き込んだ活動がある。市内ではバンブーオーケストラはプロを呼んで教えてもらっている。また、染色の方は市民文化祭の時に体験会を実施。 <p>(情報発信・PR)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い取組があるので、市外へのアピールの仕方は検討していく余地はある、市民の方は知っているが、市外の方は知らないということもある。

3. 文化芸術団体以外のヒアリング結果概要

市内の文化・芸術活動に対する認識	活動の現状	<p>(南畑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南畑美術散歩。芸術活動をしたい人が多く移り住んでおり、活動を見て回るのが好き。当初に比べて美術散歩のチラシに乗る作家さんの数が増えている。 ・南畑の美術散歩、プロの方が多く、色々と企画されていてアピール力が凄い。四季彩館でもやっている。南畑は、芸術家の方が多い。 ・個人として茶道や日本舞踊などをしている人はたくさんいるが、なかなか目立たない。けれども、南畑はプロ中のプロがいて目立つ。 <p>(市民文化祭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民文化祭。文化という名前を付いているし、市内で活動する方が出品したり、出演したりする。市民文化祭と同日に、こども館では、子ども文化祭を開催。 <p>(敷居が高い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、文化芸術と言われても、書道などをしている人は小さい頃から取り組んでおり上手いが、新しい人が入りづらい印象がある。見る分には良いが、自分がやるのは敷居が高い。 <p>(わからない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩戸神楽や、現人神社の流鏝馬など、昔からの伝統行事は分かる。それ以外は特に分からない。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロではないけれど力を持っている方もたくさんいるが活かして切れていない。地域の方で技術を持っている方と、一般市民の方をつなぐ活動をしてきた。プロではないけれども色々な技術を持っている方、資格を持っている方が、ボランティアに行ってくれることで、一般の人つながってきている。人材が繋がってきているのが凄く大切なことである。 ・市内の各中学校（3校）が、音楽コンクールを開催しており、その上位がミリカでコンクールを開催している。コロナで中断しているが、良い取り組みだと思っている。 ・裂田溝のライトアップ。ライトアップの数も増え、年々に人が増えている。
	鑑賞機会	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとも言えない。福岡市や近隣市と比べると、歌舞伎やコンサートなどは少ない。しかし、那珂川市内だけでみると、市の規模としては多いかもしれない。 ・子ども達のことを考えると、なかなか市外に出にくい状況の中では、鑑賞機会はあると思う。 ・ミリカの催しについて、皆さん情報を知らないわけではないと思う。著名な芸能関係の方が来る時は、朝から整理券のために並ばれたり、チケットの売れ行きも良かったりする。 ・鑑賞する機会が少ないというわけではなく、機会はあるけれども、行こうというところまでなっていない。 ・周りと比べても、機会はあると思う。自分の中にそれを取り入れるかということ、やはり選ぶ。日程的なものもあり、なかなか行けない。
他団体との交流機会	<p>(ある)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習い事をしていない子どもが来ている。その子だけを見ると、接点は少ない。一方で、ここに来ていない子を考えると何らかの接点を持っている。ダンスを習っている子は多い。 ・バンブーオーケストラとは、クリスマスにミニコンサートを開催。コロナ前は、七夕とクリスマスの年に2回しており、今後、戻したい。加えて、来年度は、お母さんたちが演奏する機会を設けたい。また、ママのホットタイム（子供を預けて、自分たちのエネルギーを充電）として、日向ひよっこ踊りをやる。 <p>(ない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にない。文化団体との接点がなく、知らない方が半分以上だ。 ・本音は接点を持ってどうなのかという心配がある。興味のある方ならばよいが、持った場合のバランスをどうするか。情報を共有するような柔らかい関係ならばよい。 ・文化・芸術団体はコミュニケーションが難しい印象がある。話を通じないことで嫌になる。出前講座のような形で、関わりやすい形であれば接点を持ちたい。出前講座も同じような内容（教育等）だけだと嫌がる。 ・団体を持っている人は生き生きして活動の場もあるけど、個人の活動の場がない。個人がつながることにより、グループを組んだり、違う団体に入られたりとかするので、私たち自身が団体とつながる感覚はない。 	
那珂川市の文化・芸術政策に期待すること	<p>(子どもの接触機会の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃にちょっとやっておけばと思う。 ・子どもが参加すれば、じいちゃん、ばあちゃんも参加する。家族で対応すれば、シニア層も元気がもらえるだろう。そのような催しが多くなればよい。 ・私の娘は吹奏楽部に入ったが、楽器が足らなかつたため、部活を辞めることになった。楽器を購入しておけば、年齢を重ねても活動できたので、そのあたりを取り組んでも良いだろう。 ・接点を増やしたい。鑑賞する機会がまだまだ少ない。なるべく本物と触れ合ってほしい。習わずとも知っていれば選択肢を持つことができる。早い出会いは大切。 ・12月にハンドベルの演奏会をした。今は、トンネルを作って、その先にベルを置いている。見ていたものが身近にあると、実際に興味・関心を持ってもらえる。 ・本の世界にも触れてもらいたい。市図書館から団体貸し出しで借りて、触れてもらうようにしている。 <p>(発表の場の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに関して言えばやはり発表の場が欲しい。発表の場は多くはない。誰でもが参加できるのはない。 ・学校内になると限られる。見に来る人も保護者ぐらいで、一般の市民にそれを見ることができるといえば、見られない。本当は市民文化祭が一番良いが、市民文化祭はプロの方がたくさんいる。 ・発表を見て、私もしたいとかなるし、その子が専門的でなくても体験はさせたいと思う。そういう場所が欲しい。 ・障がいの子も楽しめる発表の場としては、音楽はある。舞台に出るということで、みんなウキウキするし、褒められたら嬉しいし、目立つのが好き。そういう場がもっとできれば良い。 <p>(市民力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良いものに触れてもらいたい。良いと思うものについて、色々な人に接する機会を増やしたい。そのことが、文化・芸術の市民力アップにつながる。 ・文化芸術は市の中心にあるのではないか。市長がよく言うが、勉強以外も含めて「レベルを上げていく」という話を聞いており、そのような一環で思っている。 ・ミリカローゼンも改装して市の拠点としては良いが、交通アクセスが悪く集まりづらい。拠点であるなら、バス等のアクセスを工夫してほしい。市役所も含め拠点のつながりも工夫してほしい。 ・文化祭は、保護者はまだ我が子だけを見ている。みんなの発表を聞ける人になってほしい。そこに行き着くにはまだまだ時間がかかる。 	

4. ミリカローデンながわについて

<p>施設面について</p>	<p>(ロビー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロビーがきれいになったが、カフェが入らなかった。土日など早くカフェが入ってほしい。 ・ロビースペースがきれいになり、暑い季節や寒い季節はロビーで学生が自習しており、机やいすを占拠していることがある。文化祭等では多くの方が来るし、高齢者の方が腰をかけたくても座ることが逆に難しい場合もある。もう少し学習できる場所や多目的に活用できる場所があると良い。 <p>(展示スペース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミリカで色々な人が作品展示できる所があると良い。個人でも障がいの子でも色々な人がそこで作ったものを皆さんに見てもらいたいときに展示できる場所。年間を通してスペースを 1 週間ずつ貸すとかが出来ると凄い。市民ギャラリーみたいなのが欲しい。ちょっとした発表の場にもなる。 ・ミリカで、南畑に限らず、作家さんの作品を展示できる場所があるとよい。定期的に作品が更新されるようなことがあれば、もっと知ってもらうことにつながる。 <p>(小・中ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちのような団体について、会場を探すときにミリカの 800 席のホールを借りるキャパや、客数も含めて、適当な大きさのホールがない。150~200 席のホールがあると良い。 ・ミリカローデンの文化ホールは 800 席で大きい。本当は 300 席くらいのホールが良い。800 席を埋めるのはなかなか厳しい。多目的ホールがあるとはいえ、空気が少ない。 ・北中の多目的ホールが良い。あの規模がミリカにあると良い。ミリカが多目的ホールは天井が低い、北中のホールは天井が高い。 ・使う側としては小ホールがない。800 のホールしかないのはミリカ。多目的室は横に広いので使いにくい。そこで、春日を借りた。大野城も使いやすい。小さくこじんまり活動している人への対応ができていない。200~300 名規模があると良い。一番講演とか研修がやりやすい。 ・ミリカに小ホール (150~200 席) ができればよい。稽古場にしても、おさらい会にしても、会場を転々としている。皆が取り合いになっている状態。 ・音を出すの団体が利用できる場所が少ない。防音が必要になる。そういったことも含めて使い勝手の良い施設になると良い。小さな小ホールもそうだし、多目的なミリカは大事だが、文化振興ではそういった細かいところの課題もあるだろう。150~200 席の部屋があれば、アンサンブル編成での発表会もできる。音響が大切のため、多目的室でやろうとすると音が消えてしまう。 ・ホールも色々な団体が演奏をしたり、発表したりできるように使いやすい施設にしてほしい。 ・落語は 200 名規模の中ホールがあればとの話はある。 <p>(資料館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館がないため、資料館替わりとして、一角にそういうものがあればよい。また、それに関する本を揃えてもらえると、遠くに行かなくても良くなる。今は車に乗って遠くへ行くが、交通がなかなか大変だ。県立図書館や春日市立図書館は、図書を探してくれることに協力的だが、なかなか本がない。那珂川のことが書かれた本がもっとあれば、行ってみたいとなるだろう。 <p>(アクセス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の便だ。シニアだと乗り合わせで行くこともあるが、毎回タクシーに乗っていくわけにはいかない。催しは市広報誌に掲載されており、内容は知っているが、交通アクセスが行きづらい。中央公民館も同様だ。かわせみが以前は中央公民館に来ていたが、今は国道までである。 ・興味・関心を広げるためには、そこまで行ってもらわないといけない。交通アクセスの問題はある。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいになってとっても良い。 ・リニューアルをしてよくなった。いままで中高生の居場所がなかったのが、中高生が勉強等で使うようになり、大人の方も仕事ができるようになった。 ・Wi-Fi が無料なら、ここに来て何かしたいと思うだろう。教室で作品を見せる時も、生徒は Wi-Fi につながらない。 ・内装を改装されて、良くなった。いつも学生さんがいる。改装前は、そこまで学生さんの人数はいなかった。こども館に 18 時半までいて、そこからミリカに移動する子もいる。居場所になっている。 ・ピアノも置いてあるが、年配の方が引いている。こどもも引ければよい。
<p>運営面について</p>	<p>(利用料・利用方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物自体は改築され、素晴らしいものになっているが、利用するには利用料がかかる。一方、公民館は地区単位にあり、利用しやすい。公民館が一番身近にあり、使いやすい。足の悪い方でも公民館であれば行ってみようとなる。所有と管理は各行政区が運営しており、市が補助をすることもある。 ・プロだけでなく、市民の方に使いやすい場になって欲しい。ミリカの使用料は高く、市民向けの減免はない。エントランスは無料だったが、使いにくくなった。 ・ミリカについて、市の指定管理となっている。市民には、安い値段で自由に使えるようにしてもらいたい。使用料の関係でミリカのサークルが、文化協会の方に来るケースもある。そもそも、使用料の減免措置の規定がない。利益率を上げて、それを還元する仕組みを作ってもらい、市内の方へのサービスを高めてもらいたい。そうすることで、市内の団体が使う頻度は増えると思う。 ・那珂川市の中央公民館を利用しているクラブは、ミリカでもやりたい人もいるが、使用料が高いため、皆さんできていない。使用料の問題がある。こういう時には安くするといった条件があると良い。ミリカでクラブを開いても、人数が少なくなった場合には、「おやめになったほうが良いのでは」と言われる (月謝と会場費が合わない)。なるべく安くできる方が良い。準備をする時も時間をとって準備をしたいが、お金がかかるため、準備時間を長めにとれない。文化祭でも半日準備にかけると、それだけお金が取られるため、90 分~120 分程度の短い時間で準備をしている。 ・ミリカの使い方を知らない団体もいるだろう。春日市や大野城市ではネットで予約できるシステムがあり、そこで申し込みが簡単にできる。そういったことを取り入れれば、申し込みをする方も増えるのではないかな。例えば、部屋の空きがあり、2 名で練習ができるとなれば、個人使用などもできるのではないかな。 <p>(事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外に開かれたマルシェや農商工が融合したイベントが定期的にあると良い。お客さんがミリカ周辺を歩き来し色々な人が潤う場所になると良い。文化発表だけだと関係者が来て、見るだけで終わる。全体が潤う日があると、続いていける。歩いて行ける距離にもあると良い。小さい子供がいるお母さんはふれあい館に行けたり、図書館に行ったり、色々な団体が色々な遊びができるのが複合的でよい。 ・子ども祭は、大人が出せるものではなく、子どもが本当に楽しめるお祭りはなにか。そういうものがあると良い。子どもにこそ本物を知ってほしい。子どもの時のワクワク感は一生涯残るため、人を喜ばせるとか、人が集まると良いとなると良い。地域のおじいちゃん、おばあちゃんに並んでもらい、けん玉名人とかがいると、お互いにハッピーだ。 ・こども向けのプログラムでは、アニメが多い。アニメは人気で、安い値段で見られることは良い。

- ・子どもたちの企画展ができるとうい。いつも大人がお膳立てするのではなく、どのようにディスプレイするかも含めて子どもが考える企画をしたらよいと思う。市の子どもの権利条例の4つ目で、意見表明権がある。ミリカのエントランスで何かできると思っている子どもはいない。子ども達に、エントランスを使って何かできる場を設けてもらおうと、楽しい企画になるのではないか。
- ・ミリカと共催をして、例会の人形劇を那珂川で見られると良い。過去に何年間かしたことがある。ミリカ主催でこども劇場が協力でやったりもしたが、市になったあたりからやりにくくなった。
- ・昔はミリカにも通ったが、今はほとんどつながりがないミリカが主催すると、チケット代が安い(劇団やまももも1,000円)。高いチケット代ではお客さんが集まらないのだろう。私たちは月1,500円で5例会だと、1例会3,000円以上だ。子ども向けに1公演3,000円以上は高いという意見がある。何年もミリカとそういう話を出来ていない。
- ・ミリカで生の舞台は少ないのではないか。
- ・コンサートは、街まで行けない人がここだと気軽に行くことができる。ちょっとしたコンサートでも、那珂川の管弦楽団(九州シティフィル)や、お笑いと一緒にやったコンサートも、年に1回あると良い。
- ・文化振興課と連携をとってもらい、神楽の大会をできないか。2年に1回、夜神楽を行い、他地域からも呼ぶが、これを福岡市や大宰府、豊前等と共演できる大会を、行政としてやってもらいたい。
- ・那珂川に来て30年くらいになったが、30年間松口月城さんの展示はずっと同じ。図書館のCDも30年程度変わっていない。私が高校生生の時に借りていたラインナップが変わっていない。

(情報発信・PR)

- ・若い世代の居場所になりつつあるが、情報が届いていないようなイメージがある。加えて、アクセスの問題もある。
- ・ミリカの音響設備は良いと聞いているので、そういうこともPRして、市内、市外からも多くの方に来てもらおうと良い。
- ・せっかくあれだけの設備があるので、フルに市民の方に使ってもらって、文化の振興として色々な団体が使える施設であってほしい。
- ・取組について、もっとアピールした方が良い。また、毎回は無理でも、小学生向けに無料券を配ってはどうか。アクロスのイルミネーションは、子どもを無料にして、そのことで親が来ることを狙っている。親が、文化芸術の取り組みを知るきっかけがあるとよい。
- ・国の指定を目指したい。岩戸神楽は筑前神楽であり、糸島や宗像等、筑前エリアで神主が舞っていた神楽だが、ミリカローデンで筑前神楽を復活させる動きを行い、筑前の神楽として指定を受けるような流れになると良い。情報を発信してほしい。今は単独で取組んでいる状態である。
- ・松口月城記念館は詩吟をやっている方からすると神様のような方だが、ほとんど知られていない状態である。この前にお芝居があったが、あの空間だけでなく、ロビーや図書館などでも那珂川市の宝として活用してもらいたい。
- ・広報活動だが、自分たちでやらなければならないが、ミリカディアもあり、個別の宣伝は難しくても、特徴的な団体の紹介等や広報活動も支援してくれると良い。
- ・常設展や企画展があると良い。図書館があるので頻繁に行くが、何かがある時と、何も無い時がある。PRが得意でないイメージがある。

(組織)

- ・ミリカサークルに参加しており、非常にお世話になっている。職員さんの対応も丁寧で良い。
- ・ミリカローデンは生涯学習センターもあり取組が混ざっている。時代的には変わらないといけないぞという印象がある。
- ・文化振興財団は生涯学習と歴史を中心に取組んできた団体であり、レジデンスをやるとか、ニーズにあったプログラムを考えるリソースがない。ここ数年で変わってきたが、それでもこれが限界のように思う。生涯学習に近い取組に寄っていくことは(青空マーケット)、文化芸術という点では出来ていないだろう。
- ・ミリカには人材がいるので、団体間の交流を促し、コラボ活動を支援してもらおうとよい。そのようなプロデュースができる人を育てる、プロデュースできるようになることが求められているのでは。
- ・ミリカローデンは文化の拠点としてできたと聞いている。これまでと同じようにミリカローデン中心に皆で活動できるミリカローデンであってほしい。少しずつ雰囲気が変わってきたと思っている。最初のころの雰囲気にしてほしい。事務的なコミュニケーションではなく、関係性のあるコミュニケーションを行いたい。
- ・サークルをつくる時に、本当は2部(午前初心者・午後それ以外)に分けたかったが、4名しか集まらず、5名以上でなければサークルが成立しないため初心者の方も一緒にやっている。このような時に、ミリカは何を大事にして文化活動を支えているのかと思った。例えば、日舞は10名で練習できるものでもないが、大きなサークルと同じ人数という感覚。そうなるとう広がらない。この芸術はこういう特徴があり、これを大事にしようという配慮があると良い。ミリカの問題というより、文化を推進するためには個々を大事にもらいたい。